

工場より出荷された自転車は社内規格によって正常かつ確実な組み立てを行っており、梱包も損傷することのないよう配慮しております。しかし、輸送中の振動・衝撃により金属部分の接触面などにナジミを生じ、緩むことも考えられます。車輪の振れ、各部締め付けねじ類を点検・調整の上、完全な商品としてお客様にご販売くださるようお願いいたします。

組立説明書



組み立てるまえに必ずご一読ください。

お願い

- 保証書に必要事項をご記入いただき、「取扱説明書」とともに必ずお客様にお渡しください。（キーの番号は保証書に印字されています。）
- 防犯登録が義務化されていることをご説明いただき、登録を行ってください。
- 前後タイヤの空気圧の点検をお願いします。
- 組み立て後、バッテリーを満充電してください。
3か月以上の長期保存の場合、およびお客様に商品をお渡しする際にも、満充電をしてお渡しください。
- 組み立ての済んだ自転車は取扱説明書裏表紙の「定期点検・整備チェックリスト」にてチェックを行い、必ず実走によるブレーキテストを実施の上、お客様にお渡しください。
- 次回の点検からも取扱説明書の裏表紙にある定期点検・整備チェックリストをもとに確認してください。
※点検などに関して詳しくは「取扱説明書」をご覧ください。
- メンテナンスする際にも組立説明書が必要になります。ご販売店様でも保管することをおすすめします。
- 組立説明書に記載されていない方法や、指定の部品を使用しないで組み立てされたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その組み立てが原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。

（おことわり）説明で、図などが多少異なりますが取り扱いおよび組み立て方はほぼ同じです。

標準締付トルク一覧表

M3	(0.8~1.3)N・m	{{(8~13)kgf・cm}}	ハンドル	(18~20)N・m	{{(180~200)kgf・cm}}
M5	(3~4.5)N・m	{{(30~45)kgf・cm}}	サドル	(18~21)N・m	{{(180~210)kgf・cm}}
M6	(6.5~9.5)N・m	{{(65~95)kgf・cm}}	シートピン M6	(6.5~9.5)N・m	{{(65~95)kgf・cm}}
ハブ軸 BC5/16	(18~24)N・m	{{(180~240)kgf・cm}}	シートピン M8	(18~21)N・m	{{(180~210)kgf・cm}}
ハブ軸 BC3/8	(30~35)N・m	{{(300~350)kgf・cm}}	ペダル	(35~40)N・m	{{(350~400)kgf・cm}}

※本文中に締付トルクの記載がないねじ締結部は、上の表に従って組み立てを行ってください。

パナソニック サイクルテック株式会社

〒582-8501 大阪府柏原市片山町13番13号

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。



警告

「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。



注意

「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。



してはいけない内容です。



実行しなければならない内容です。



警告



■前車輪脱落防止金具は必ず組み付ける

組み付けないと車輪が外れて転倒によるけがのおそれがあります。



■シートポストははめ合わせ限界標識が見えなくなるまで挿入して組み付ける

はめ合わせ限界標識が見えるところで組み付けると、ポストの折れにより転倒によるけがのおそれがあります。



■グリップは、グリップ内側とハンドルバー表面の水分や油脂分をよくふき取り、奥まで差し込んで組み付ける

水、油脂類を付けるとグリップが脱落し、転倒によるけがのおそれがあります。



■ワイヤ・コード類は、指定の場所、指定のコードクリップなどで固定する

ワイヤ・コードを車輪などに巻き込んで、急激にロックし、転倒によるけがのおそれがあります。



注意



■インナーワイヤの先端には、必ずインナーワイヤキャップを組み付ける

組み付けないとけがのおそれがあります。



■六角棒レンチは六角穴付きボルトの奥まで確実に差し込み、締め付けを行う

はずれてけがをするおそれがあります。

お願い

- さび付きによる固着を防止するためハンドルステムおよびシートポストの挿入部には薄くグリスを塗ってください。

■前車輪の組み付け



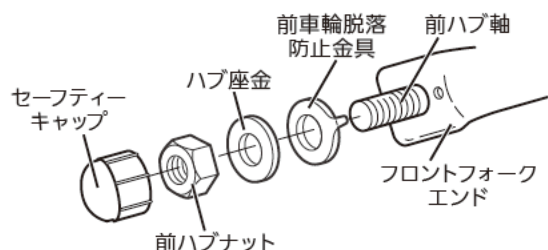
警告

■前車輪脱落防止金具は必ず組み付ける

❗ 組み付けないと車輪が外れて転倒によるけがのおそれがあります。

○図のような順序で組み付けてください。

●前ハブ軸



■ハンドルバー、ハンドルステムの組み付け

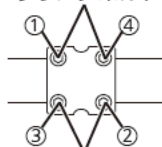
●ハンドルバーの組み付け

○クランプ部のボルトを取り外してください。ハンドルバーを組み付け、中心を合わせてクランプボルトで固定してください。

このとき、前後のすき間が均等になるように、クランプボルトを①→②→③→④の順に2～3回に分けて締め付けてください。



クランプボルト

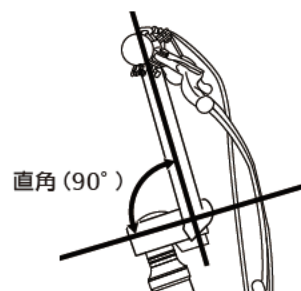


クランプボルト

クランプボルト
締めトルク
(18~21) N・m
{(180~210) kgf・cm}

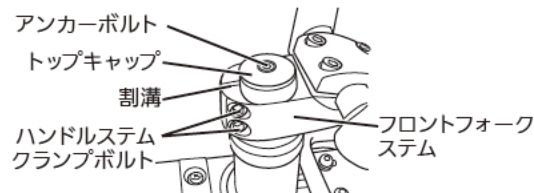
●ハンドルバーの角度調整

○ハンドルバーとハンドルステムの角度がほぼ直角になるように調整します。



●ハンドルステムの組み付け

①下図のようにハンドルステムクランプボルトを締め付けてください。(2ボルトタイプ)



クランプボルト
締めトルク
(18~21) N・m
{(180~210) kgf・cm}

②ヘッド小物のガタ・回転が重いときは、ハンドルステムクランプボルトをゆるめてからアンカーボルトで調整してください。

③ヘッドの回転が適正になったら、元通りハンドルステムクランプボルトを締め付けてください。



警告

■調整後は必ず点検する



フロントフォークシステムが折れて転倒によるけがのおそれがあります。

■ハンドル周りの組み付け



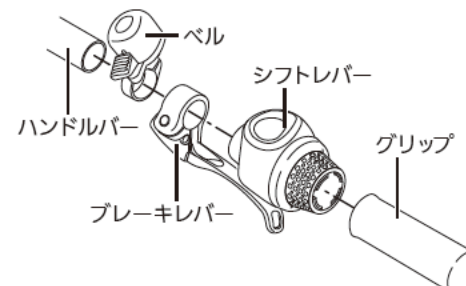
警告

■グリップは、グリップ内側とハンドルバー表面の水分や油分をよくふき取り、奥まで差し込んで組み付ける

❗ 水、油脂類を付けるとグリップが脱落し、転倒によるけがのおそれがあります。

●ハンドル右側

○図のような順で組み付けてください。短いグリップは、右側に使用してください。



ベル
締めトルク
(0.8~1) N・m
{(8~10) kgf・cm}

ブレーキレバー
締めトルク
(6~8) N・m
{(60~80) kgf・cm}

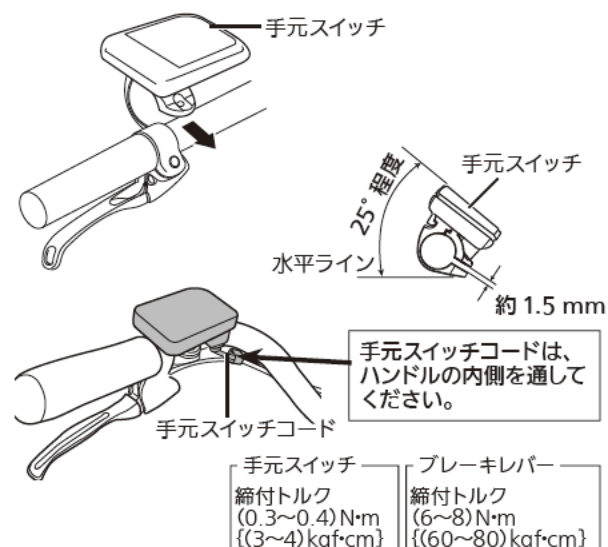
シフトレバー
締めトルク
(2.5~4) N・m
{(25~40) kgf・cm}

●ハンドル左側

○図のような順で組み付けてください。手元スイッチはブレーキレバー側に寄せ、運転者の方に向けて、組み付けてください。また、バンドのすき間が約1.5mmになるようにしてください。手元スイッチコードはハンドルの内側を通すようにしてください。

ご注意

●締めすぎると、変形・外観不良の原因になります。特に、電動ドライバーで締め付けを行う場合、設定トルクによっては、ナットが共回りしてしまうことがありますので、十分注意してください。

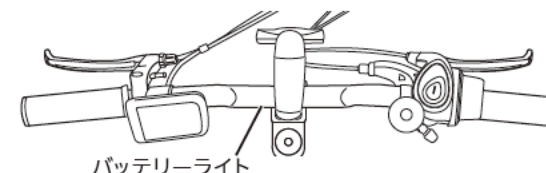


手元スイッチ
締めトルク
(0.3~0.4) N・m
{(3~4) kgf・cm}

ブレーキレバー
締めトルク
(6~8) N・m
{(60~80) kgf・cm}

■バッテリーライトの組み付け

○バッテリーライトをハンドルの中央に組み付けます。



①アタッチメントをハンドルに取り付けます。

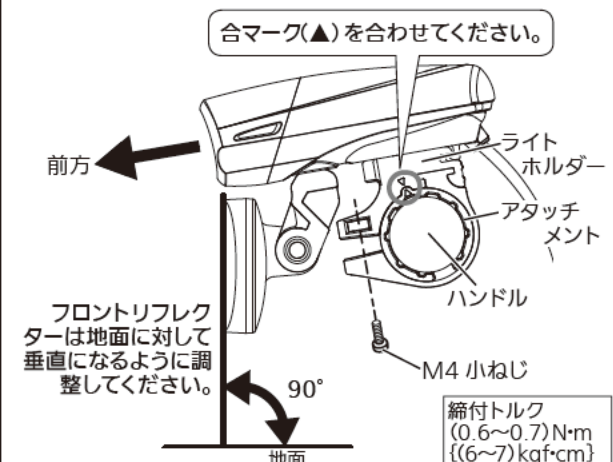
②バッテリーライト本体をハンドルに取り付けます。※アタッチメントとライトホルダーの合マーク(▲)を下図のように合わせて組み付けてください。

ライトコードはハンドルの手前側を通すようにしてください。また、ハンドルを左右90度動かしたとき、ライトコードが突っ張らない程度にたるみを持たせてください。

コード処理について、8ページ「コードクリップ類の組み付け」もご確認ください。

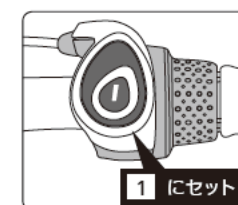
③照射角度(前方10mの路面が見える角度)を決めM4小ねじで締め付けてください。

※締め付け後、ライトに力を加えてみて動かないか確認してください。



■変速ワイヤの組み付け

①シフトグリップを①の位置にセットします。



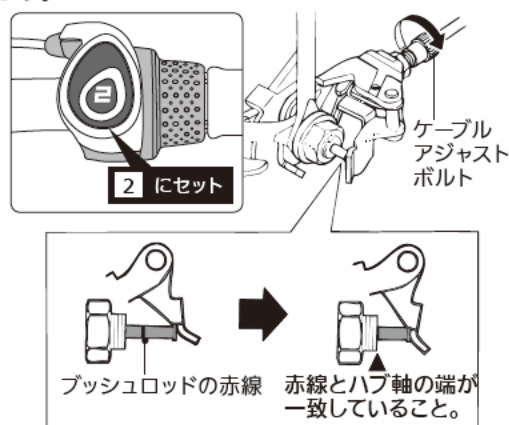
②ハブ軸にプッシュロッドを差し込みます。



③ペルクランク本体の調整ねじを締め込んだ状態で、インナーケーブルを調整ねじに通し、インナーケーブルのワイヤニップルをリンクの溝に引っ掛けます。



④シフトグリップを②の位置にセットします。次に調整ねじを反時計方向に回して、プッシュロッドの溝(赤線)とハブ軸の端とが一致するように合わせます。



クランクを回しながら、シフト操作を2～3回繰り返し、実際に変速していることを確認します。再びシフトグリップを②の位置にセットし、プッシュロッドの溝(赤線)とハブ軸の端とが一致していることを確認してください。

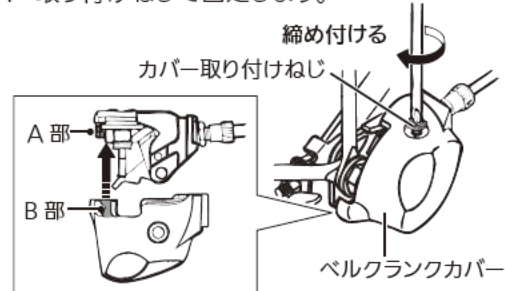
お願い

- もしピッタリ一致していない場合は、調整ねじを回して微調整をしてください。

⑤ペルクランクの調整をしたあと、ロックナットで調整ねじを固定します。



⑥ブラケットのA部とペルクランクカバーのB部を合わせ、ブラケットにペルクランクカバーをセットし、カバー取り付けねじで固定します。



■シートポスト・サドルの調整



警告

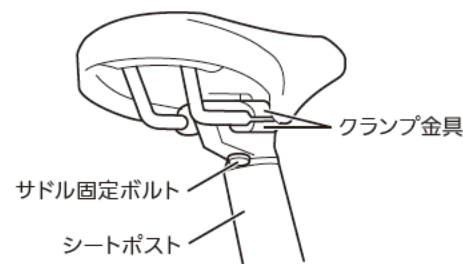
■サドル上面を水平に組み付ける

- ！ サドル固定ボルトが折れ、固定が不安定になり、転倒によるけがのおそれがあります。

■はめ合わせ限界標識が見えるまで上げない

- 禁止 シートポストが折れて転倒によるけがのおそれがあります。

○サドル固定ボルトをゆるめ、サドル舟線をクランプ金具の間にはさみ、サドル上面が水平になるよう保持してサドル固定ボルトを締め付けてください。

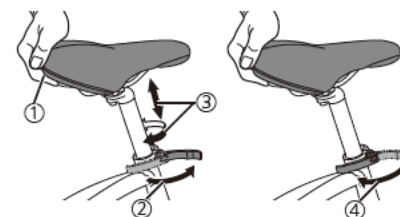


お願い

- シートポスト挿入部に薄くグリスを塗って組み付けてください。水分の侵入によるさび付きを防ぎます。

●高さとの調整

- ①サドルを支え持つ。
- ②カムレバーを前方向(OPEN↑の方向)に開ける。
- ③サドルの高さと向きを調整する。
- ④カムレバーを閉める。

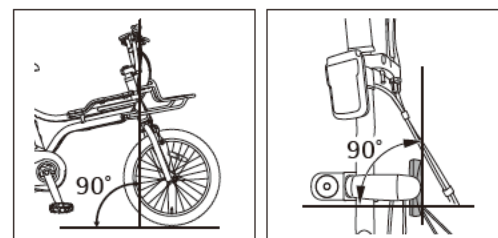


お願い

- カムレバーを④の方向に閉じてもサドルが固定できないときは、カムレバーを②の方向に開き、セットナットを0.5～1回転締め付けてください。再度、カムレバーを④の方向に閉じ、サドルが固定されていることを確認ください。
- カムレバー固定の調整は、セットナットを回転させてください。
- カムレバーを閉じるときの力は、レバー先端に150 N{15 kg}程度の力で閉じられるようにセットナットを調整してください。

■フロントリフレクターの組み付け

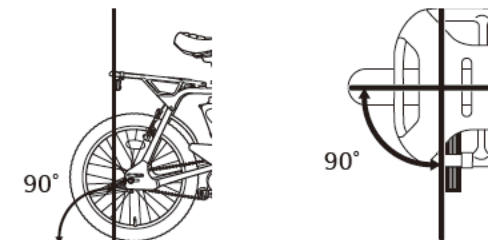
○バッテリーライトを組み付け、照射角度を調整後、フロントリフレクターの反射面が地面および前車輪に対して直角になるよう、ご注意ください。



締付トルク
(0.6~0.7) N・m
{(6~7) kgf・cm}

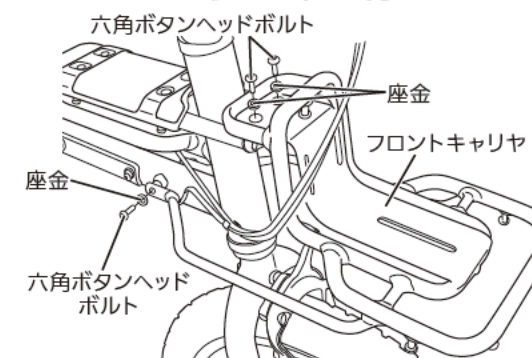
■リアリフレクターの組み付け

○リアキャリアに組み付けてください。このとき反射面が地面および後車輪に対して直角になるよう、ご注意ください。



締付トルク
(3~4.5) N・m
{(30~45) kgf・cm}

■フロントキャリアの組み付け



締付トルク
(6.5~9.5) N・m
{(65~95) kgf・cm}

■ペダルの組み付け

※ペダルは左右でねじ方向が違います。右ペダルは右ねじ、左ペダルは左ねじです。

- ①クランク(右側)にペダル(R)のシャフトを時計方向に回し、ねじ込みます。
- ②クランク(左側)にペダル(L)のシャフトを反時計方向に回し、ねじ込みます。

締付トルク
(35~40) N・m
{(350~400) kgf・cm}



注意

■ヒゲ状のバリを取り除く



バリによるけがのおそれがあります。

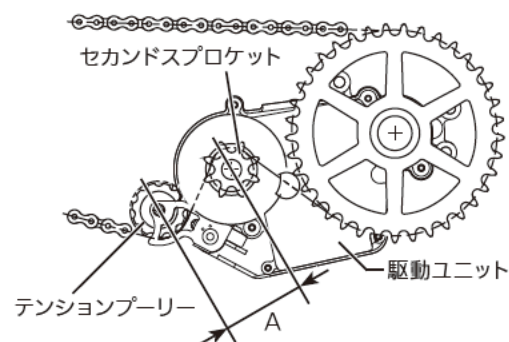
- ペダルをクランクに締め付けた際に、ヒゲ状のバリが発生することがあります。バリが残らないように、工具(ラジオペンチ・ニッパーなど)で取り除いてください。このとき、けがをしないよう注意してください。

■チェーンテンション(張り)の調整

○出荷時、チェーンの張りは調整済みです。

(A寸法: 60 mm ~ 70 mm)

○メンテナンス時(チェーンが伸びた状態)にチェーンの張りをチェーン引きにて調整する場合、A寸法が 65 mm ± 3 mm が適正寸法です。適正寸法を守らないと、音鳴り、チェーン飛びやチェーン外れの原因になります。



警告

■チェーン調整時、適正寸法を守る

チェーンが外れ、転倒によるけがのおそれがあります。

●チェーンについて

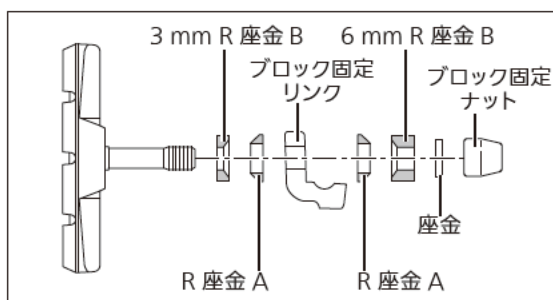
お願い

●この自転車は電動アシスト自転車用に耐久性を高めた強化チェーンを使用しています。チェーンを交換する際は、必ず純正チェーンを使用してください。

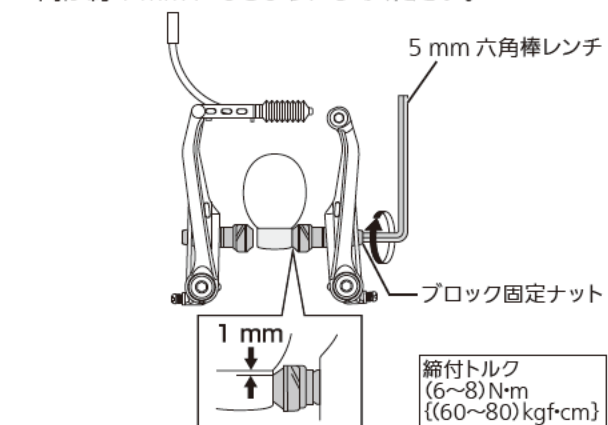


■前後ブレーキの調整

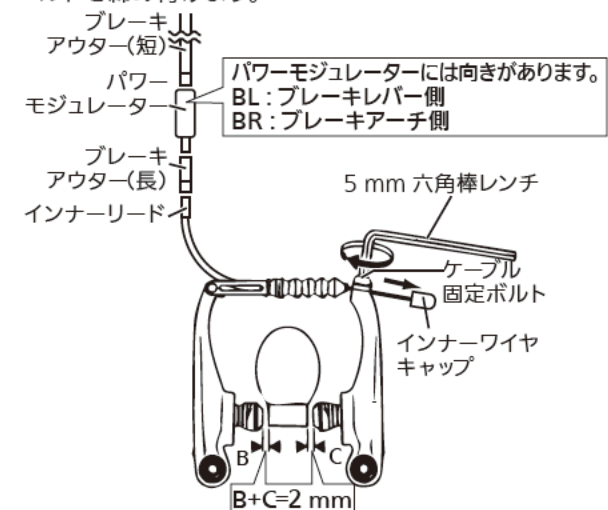
○このモデルのブレーキの仕様は、下図のようになっています。



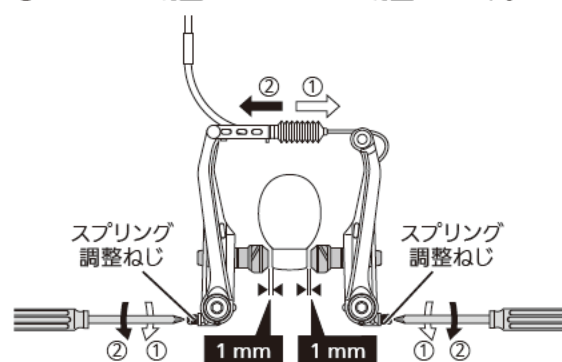
①ブロックをリムに押し当てた状態で、ブロック固定ナットを締め付けます。このとき、タイヤとブロックのすき間が約 1 mm になるようにしてください。



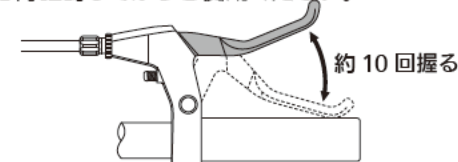
②インナーワイヤをパワーモジュレーターとブレーキアウター(長)とインナーリードに通し、ブロッククリアランスの左右合計が 2 mm の状態で、ワイヤ固定ボルトを締め付けます。



③スプリング調整ねじでバランス調整をします。



④ブレーキレバーをグリップに付くまで 10 回ほど強く握り、各部に異常がないことと、ブロッククリアランスを再確認してからご使用ください。



お願い

●ブレーキを組み付け、調整したあと、インナーワイヤは、出代が 50 mm ~ 60 mm になるよう、残りの不要な部分をカットし、先端にインナーワイヤキャップを取り付けてください。

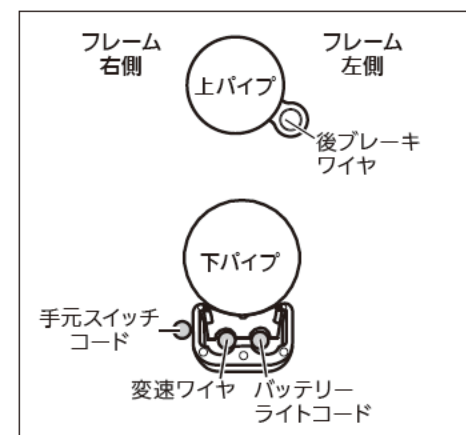
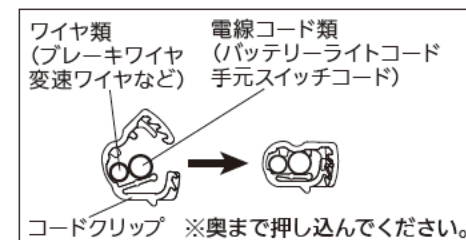
■コードクリップ類の組み付け



警告

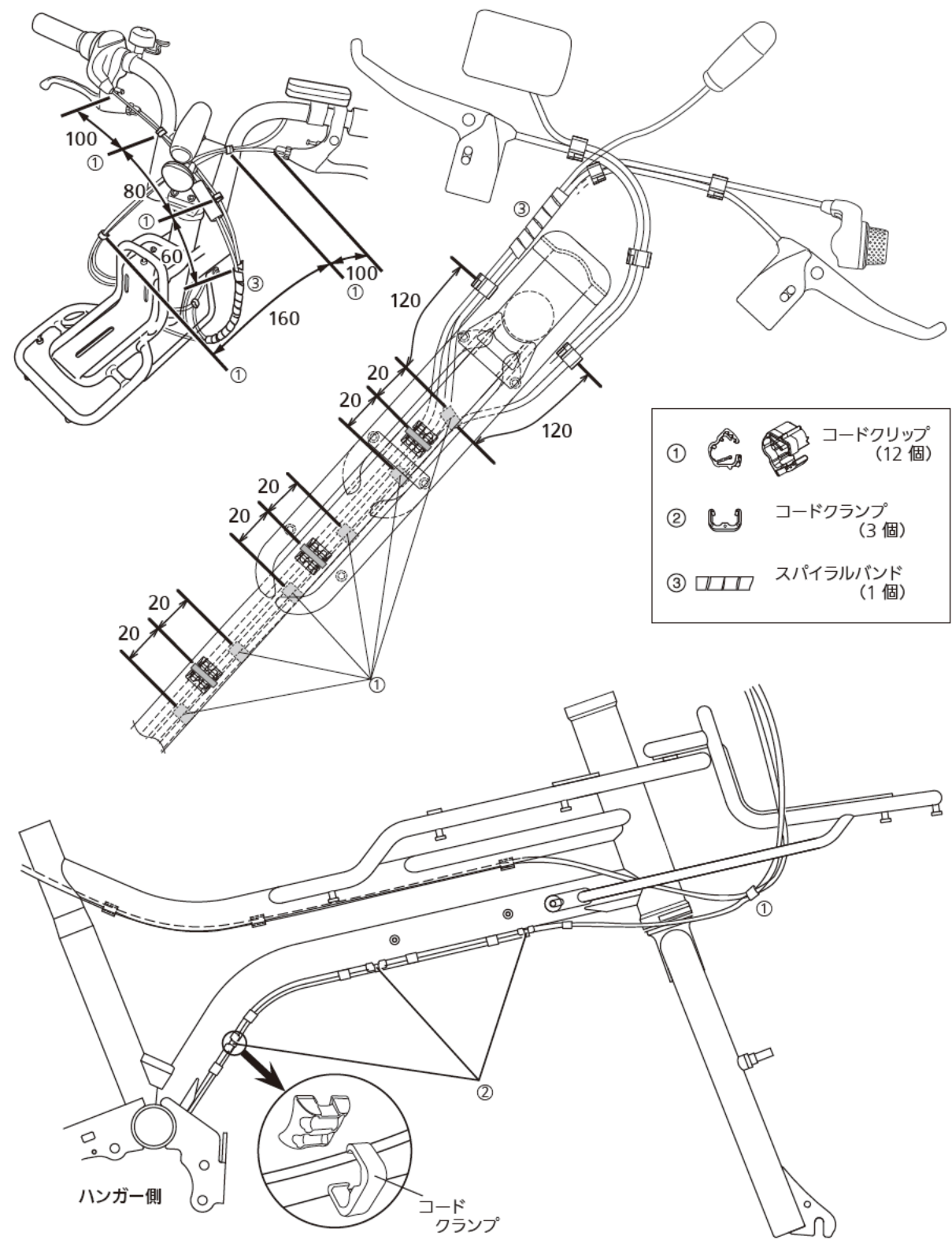
■ワイヤ・コード類は、指定の場所、指定のコードクリップなどで固定する

ワイヤ・コードを車輪などに巻き込んで、急激にロックし、転倒によるけがのおそれがあります。



●コードクリップ類の組み付け

○下図のようにコード類をコードクリップ、コードクランプで固定してください。コード類がフレームに沿った状態で、コードクランプをフレームダボにかぶせるようにして、コードを固定します。コードのたるみは、ハンガー側に引きよせて、本体カバーの中に押し入れます。



■末組み付け部品明細表(7 分組立)

チェック	部品名	個数	チェック	部品名	個数
	ペダル	1 セット		前車輪	1
	前ブレーキワイヤ	1		ハンドルバー	1 セット
	グリップ	1 セット		ペルクランクセット	1
	ベル	1		シフトレバー	1
	前車輪脱落防止金具	2		フロントリフレクター—体型バッテリーライト	1
	バッテリーライト取り付けねじセット	1		フロントキャリア	1
	フロントキャリア取り付けねじセット	1 セット		前ハブナット・前ハブ座金	各 2
	手元スイッチ	1		セーフティーキャップ(前ハブ軸用)	2
	コードクリップ(コード固定用)	12		セーフティーキャップ(ハンドルステム用)	1
	コードクランプ	3		スパイラルバンド(コード結束用)	1
	リヤリフレクター	1		端子カバー	1
	インナーワイヤキャップ	2		充電器	1
	保証書	1		4, 5, 6 mm 六角棒レンチ	各 1

上記部品は梱包のために仮組み付けしている場合もありますので、取り付け状態や締め付けを必ず確認、調整してください。

■端子カバーの使いかた

お客様に説明のうえ、お渡してください。

お願い

●長期間、自転車からバッテリーを取り外したままにする場合や、充電器を使用にならないときは、汚れやほこりが付かないように、付属の端子カバーを装着してください。

This image shows a blank sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

[illegible]